

## 「原生生物」投稿規定

2025年7月11日

「原生生物」は、日本原生生物学会が機関誌として発行する和文誌で、原生生物学に関係する学術情報の発信、原生生物学研究者の議論の場の提供、学会員間の情報交換を目的とする。原則として年に2回発行するが冊子体は作成せず、PDFファイルとして学会ホームページからのダウンロードにより配信する。

掲載する学術論文は、独自の新しい研究成果を報告する**原著論文**、原生生物学の特定分野の研究について概説する**総説**、近年公表された論文や試験的な取り組みについて議論する**コメンタリー**、原生生物学分野の著作物を紹介する**書評**を掲載する。**原著論文**は、英語版を含めてこれまでに公表されていないかまたは他誌（*Journal of Protistology*を含む）に投稿中でないものに限る。**総説**、**コメンタリー**、**書評**についても、これまでに公表されているものと内容が大きく重複しているものは掲載しない。

投稿者は会員・非会員を問わない。原著論文以外の記事は編集委員会から執筆を依頼する場合がある。また、編集委員会は必要に応じて**特別寄稿**などを企画し、この執筆を依頼する場合がある。

原稿は執筆要領に従って作成する。**原著論文**、**総説**、**コメンタリー**については、編集委員会から執筆を依頼した場合を含めて、2人以上の専門家による査読を経て掲載する。掲載にあたって寄稿者は、国際的な著作権ルールであるクリエイティブ・コモン・ライセンスの1つ、CC BY 4.0に同意する必要がある。

### 1. 原稿の送付先・投稿に関する問い合わせ先

原稿は電子メールに添付して下記あてに投稿する。10Mバイト以上の大きなファイルを送付する場合は、事前にメールで問い合わせること。

茨城大学理学部  
日本原生生物学会「原生生物」編集事務局  
北出 理  
E-mail: osamu.kitade.sci@vc.ibaraki.ac.jp  
〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

### 2. 執筆要領

**原著論文**、**総説**、**コメンタリー**、**書評**のいずれにも字数や図の数に制限は設けていないが、内容に応じたコンパクトさが求められる。**総説**、**コメンタリー**、**書評**の執筆にあたっては、馴染みのない専門用語の多用を避ける、平易な表現を心がける、理解の助けになるような図を挿入する、などの工夫をして、専門分野の異なる研究者および大学院生でも理解できる内容とすること。

### (1) 原稿の書式

すべての原稿は原則として MS Word (.doc, .docx) で準備する。本文、表、図の説明文を含めて、全て A4 サイズの用紙を設定し、各ページの周囲に約 2.5 cm の余白をあける。投稿時の原稿のフォントは特に定めないが、汎用性の高いものを使用し、査読に適した 10-12 ポイントのフォントサイズとすること。

句読点は「, 」と「. 」を用い、本文中の括弧は、全角の括弧を用いる。英文、英単語、数字、単位等を用いる場合は半角文字とし、その前後に半角スペースをおく。英数字の文字列内の括弧は半角を用い、その前後に半角スペースをおく。

**原著論文、総説、コメンタリー**の原稿は、1 ページ目に論文題目（日本語のみ）、著者名（日本語とローマ字併記）、所属と所在地、副題（25 字以内）、キーワード（タイトルに含まれない語句を 5 個以内）、連絡すべき著者の氏名、住所、TEL 番号、FAX 番号、e-mail アドレスなどの情報を記載する。2 ページ目以降には、要旨（日本語 250 以内）、本文、引用文献リスト、表、図の説明を順に記載する。**原著論文**の本文は、序論、結果、考察、材料と方法、謝辞の順に記載し、**総説**と**コメンタリー**の本文は特に形式を定めない。

**書評**の原稿は、1 ページ目に記事題目、著者名（日本語とローマ字併記）、所属と所在地、TEL 番号、FAX 番号、e-mail アドレスなどの情報を記載し、2 ページ目以降の書式は定めない。

### (2) 生物名、遺伝子名、単位などの表記

- a. 生物名：初出箇所において正式な学名をイタリックで記し、他の属名と混同する可能性がなければ、属名はその後イニシャルのみに省略する。生物の通俗名を用いる場合は、初出時に正式な学名を併記する。
- b. 生物名以外のラテン語の表記はイタリックにしない（例、*in vivo*, *de novo*）。
- c. 遺伝子名ならびに遺伝子産物の名称：原則として遺伝子名はイタリックで記し、その産物であるタンパク質名はイタリックにはしない。なお、それぞれの生物種で用いられている命名法および表記法に従い、適切に記述すること。
- d. 単位：SI 単位を用い、そのルールに従って適切に表記する。
- e. 記号：数学的記号と数字の間には半角スペースを入れる（例、 $1 + 2$ ,  $1 < 2$ ）。ただし次のような場合は半角スペースを入れない。 $2 \times \text{TBE}$ ,  $-85^\circ\text{C}$ , 10%,  $360^\circ$ , 1-100.
- f. 数字：3 桁ごとにカンマを入れる。（1000 ではなく 1,000）。

### (3) 引用文献

- a. 本文中の引用文献は下記のように記載する。
  - ・ 著者が 1 名の場合：Hiwatashi (1965), または (Hiwatashi, 1965; Allen, 1974); 藤島 (2010), または (藤島, 2010; 浅井, 2011)。
  - ・ 著者が 2 名の場合：Nozawa and Thompson (1971), または (Nozawa and Thompson, 1971; Satow and Kung, 1976a, b); 藤島・堀 (2010), または (藤島・堀, 2010; 藤

島・堀, 2011a, b) .

- 著者が3名以上の場合: Tanabe et al. (1990), または (Tanabe et al., 1990, 1991); 藤島ほか (2010), または (藤島ほか, 2010, 2011a, b) .
  - 印刷中の論文の引用は, 姓の次に (in press), または (印刷中) と書く. 投稿中や投稿準備中の論文の引用は, 本文中に (Numata, O., personal communication), または (Numata, O., unpublished data); (沼田治, 私信), または (沼田治, 未発表データ) のように書き, 引用文献のリストには書かない.
  - URL の引用は, 本文中で括弧内に ([http://protistology.jp/journal\\_j.html](http://protistology.jp/journal_j.html)) のように書き, 引用文献のリストには書かない.
- b. 本文中で引用した論文は, 本文の最後の引用文献にアルファベット順に下記の例のように記載する. 引用文献の正確な表記に関しては著者が責任をもつこと.
- 雑誌に掲載された論文: Ishida, M., Aihara, M. S., Allen, R. D. and Fok, A. K. (1993) Osmoregulation in *Paramecium*: the locus of fluid segregation in the contractile vacuole complex. *J. Cell Sci.*, 106, 693–702. ; 石田正樹, 富永貴志 (2006) ゾウリムシの収縮胞複合体. *原生動物学雑誌*, 39, 157–172.
  - DOI が付されている場合は必ず併記する: Takahashi, T., Shirai, Y., Kosaka, T. and Hosoya, H. (2007) Arrest of cytoplasmic streaming induces algal proliferation in green paramecia. *PLoS ONE*, 2, e1352. doi:10.1371/journal.pone.0001352  
雑誌名の略は, NCBI (ISO Abbreviation, <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/nlmcatalog/journals>) を参考にして記載する.
  - 単行本の章: Takahashi, M. (1988) Genetics. *In: Paramecium*. Görtz, H.-D. (ed.). Springer-Verlag, Stuttgart, pp. 271–281. ; 藤島政博 (1988) 遺伝学的な実験法. *原生動物の観察と実験法*. 重中義信 (編), 共立出版, 東京, pp. 191–226.
  - 単行本: Beale, G. H. (1954) *The Genetics of Paramecium aurelia*. Cambridge University Press, Cambridge. ; 重中義信 (1981) *原生動物*. 東京大学出版会, 東京.

#### (4) 表

表は, MS Word もしくは MS Excel で別ページ上に作成し, 内容を説明する表題とその説明文をつける. 表には, 表1や表2のように, 本文で使用する順に一連の番号をつける. MS Word のコメント機能などを用いて, 引用とは別に, 本文中に表の挿入箇所を示してもよい.

#### (5) 図

投稿時の原稿には PDF 形式にした図を添付する. 査読を経て受理された後に, TIFF, EPS, または JPG 形式の図を提出する. このとき, グラフや写真等は, A4 ファイルサイズ上で 300 dpi 以上の解像度になるように作成すること. 図に使用する文字, 数字等は, 最終サイズが 1.5 mm 以上の高さになるようにする. 図1や図2のように, 本文で使用する順に一連の番号をつけ, ファイル名には著者名 (共著の場合は代表者名) と図の番号を記すこと. 複数の写真や線画 (A, B, C, D など) から構成される図の場合, 一つの合成イラストファイルとして投稿すること. 本文中での図の引用においては, (図1), (図1A), (図1A, B), (図1A–D) のように記すこと. 引用とは別に, MS Word のコメン

ト機能などを用いて、本文中に図の挿入箇所を示してもよい.